

sento & neighborhood journal

DAIKOKUYU

せんとまち新聞



北区の記憶あつめ編 Vol.4 大黒湯

ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全23軒(令和5年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有して、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS 大黒湯紹介/記憶地図/住民かく語りき



室内でも自然を感じられる木々と天窓からさしこむ陽光。



増築された常連お墨付きのサウナ。

地域を愛し 地域に愛される 「こみゆにいてい銭湯」

脈々と受け継がれる 大黒湯

北区上中里で「こみゆにいてい銭湯」という看板を掲げる「大黒湯」。

現店主、田村将一さんの祖父は新潟県、祖母は石川県出身で、戦前には大森で銭湯を営んでいたという。「その銭湯が戦争で焼失し、母が故郷の山の木を売って資金を作ったが、なんと上京する電車での資金をすられてしまったらしい。新聞の一面にも載ったと聞いている」と将一さんの父、2代目の孝嗣さん。小学生だった当時、能登に疎開していたそう。その後、なんと「田畑湯」という銭湯を借りて営業を再開。そして親戚にも支えられながら、1948年に上中里で大黒湯を営業し始めたという。ちなみに大黒湯はこの地に戦前からあり、かつての持ち主は錦糸町の銭湯に力を入れるため、大黒湯を手放したのだとか。

「開業当時はまだまだ戦後の雰囲気があり、バラックのような建物の中で、薪をパンパン燃やしながら風呂を焚いていた」と孝嗣さん。建設時は「ガラスも使われていないボロ屋だった」が、それでも行列ができるほど賑わったようだ。そして「1



大黒湯の兔の毛通し

955年頃に新潟の風呂屋の無尽で資金を工面し、庭や池を設けた10間口の立派な銭湯に建て替えた」という。今も玄関に掲げられている玄関飾り「兎の毛通し」はかつての銭湯建築の名残だ。ちなみに、当時の銭湯店主は銀行よりも無尽を利用することが多く、「無尽の賭け事で風呂屋を失ったり、より多くの風呂屋を手に入れたりということがあった」そう。

それからしばらく、大黒湯は笑いが止まらないほど儲かり、200mほど離れたところに「福の湯」を新設するまでに。だが、「父が1963年に他界したため、当時やっていたスキー選手を辞めて継ぐことに。所有していた3軒の銭湯は、3人の兄弟がそれぞれ継承したが、現在も残っているのはうちだけだ」と孝嗣さんは話す。

銭湯を通じた コミュニティの醸成

ところで、「コミュニティ銭湯」とはかつて東京都が認定していた「コミュニティセンター」を併設した銭湯のこと。孝嗣さんが東京工業大学の先生と再三にわたってコミュニティのあり方を議論し、1980年にその第1号に認定され、同時に大規模な建て替えを実

施したという。コミュニティセンターはなくなったものの、今も大黒湯には地域住民がひっきりなしに訪れる。最大の目当てはやはり風呂。大黒という文字がかたどられたタイル壁面が印象的な洗い場や、井戸水を使ったお湯が評判で、なかでも露天風呂(男湯)や葉草風呂が好評だとか。また最近では、室温約100℃の遠赤外線サウナ(男湯)と室温約60℃の乾式サウナ(女湯)が人気沸騰中だ。接客面においてもコミュニティを重んじる方針は一貫しており、将一さんは「いつも開店前から並んでいる常連客がいなくて、つい心配になる」と話す。そして常連客との楽しい会話は将一さんの母、美智代さんの十八番。地元の名物女将として、常連客の心をつかりと損んでいる。



「銭湯は人と人のつながりがある素敵な商売」と美智代さん。

銭湯文化の継承

地域貢献の一環として、大黒湯では「銭湯教育」にも力を入れている。近所の滝野川第五小学校の児童たちが林間学校に行く前には、将一さんが大黒湯で大浴場への入り方をレクチャーしているそう。こうした機会は積極的につくっていきたいし、それが銭湯文化の継承につながると思う。おかげで、うちには若い子たちがよく来るよ」と将一さんは話す。

まさにコミュニティ銭湯を地で行く大黒湯の取り組みを見てみると、あらためて「銭湯とまち」のつながりの大切さに気付かされる。

せんとまち情報 SENTO DATA

大黒湯



大黒湯 東京都北区上中里2丁目31-12 京浜東北線「上中里駅」から徒歩2分 平日、土曜:15:00-23:00 日曜、祝日:14:00~23:00 定休日:火曜日(月1回連休あり)

フロント 露天風呂 薬湯 サウナ 水風呂 ランドリー 駐車場(無料)

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

● 現在も営業中 ● 閉店

大黒湯編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！

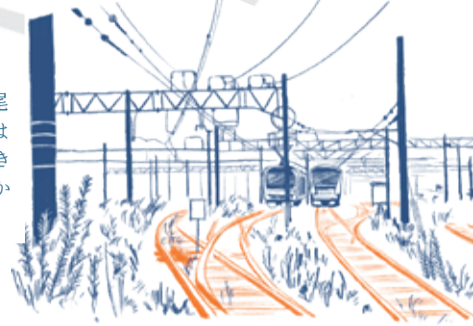
梶原いろは亭

東北本線を越えたところに、NPO法人いろは苦楽部が小さな寄席をオープン。地域の人々の協力を得て運営されている様子はまさに「コミュニティ寄席」。ぜひ、大黒湯とあわせて立ち寄ってみては。



尾久車両センター

大黒湯から程近い場所に尾久車両センターがある。昔は客車区から枕木をもらってきて、それを燃やして湯を沸かしていたこともあったという。



田中青果店

昭和の香りを今に残しながら、現在も元気に上中里の食卓を支えている。1958年の開店祝いに呼んだというチンドン屋さんの写真も趣深い。



提供：田中一弘

大黒湯

元祖「コミュニティ銭湯」の名の通り、多くの地域の人たちが垣根なく訪れる憩いの場となっている。1980年代にサウナを始めた当時、サウナ会という利用客同士の集まりがあり、大黒湯にあったカラオケを楽しんでいたという。



花屋食堂

ほっとする味がなんとも嬉しい昔ながらの大衆食堂。印象的な店名は元々花屋さんを営んでいたことに由来する。



上中里駅

- クリーニング屋
- 不動産屋
- くすり屋
- おかし屋
- おかし屋
- 干物屋

- 床屋
- 医院
- 寿司屋
- スナック
- 豆腐屋



浅野屋

1958年創業のお蕎麦屋さん。二代目の店主がこだわり抜いた二八蕎麦はコシがあり喉越し爽やか。銭湯帰りにぜひお酒とメの蕎麦を一枚手繰って粋にいただきたい。



住民かく語りき

大黒湯周辺

わたしのせんととうとまち

— 北区の記憶あつめVol.4 大黒湯 —



Photo / Mari Okamoto

9月22日、記憶集めトークイベントが実施された。これは大黒湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというものだ。常連や2代目夫婦をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

話題が上がったのはまず大黒湯周辺のにぎわい。「かつては周辺にラーメン屋や寿司屋、とんかつ屋、八百屋、酒屋、魚屋、肉屋、豆腐屋、床屋、と何でもあった」と参加者。

大黒湯に関しては、「子どもも多く、ザルに布団を敷いたり、抱っこしながら番台をしたりといった様子だった」「10人ほどの女中さんが福の湯と掛け持ちで働いていた」という話も。

また、昔は印象的なお客も多かったようで、なかでも「ペンキ屋の大将がよく陽気に鼻歌を歌っていた」「ペンキ屋の大将はよく子どもたちをしゃべらせてくれた。公共のいろんなマナーを知る場所だった」といった話題で持ちきり。

そして、次なる話題はコミュニティ施設が健在だった頃の大黒湯へ。「2時間単位で施設を無料で借りることができ、卓球にダンス、ボクシング、ヨガ、社交ダンスなど、いろんな趣味を楽しめて本当に良かった」「汗をかけた後にそのまま銭湯に行くことができたので、非常に便利だった」「町内会の拠点としても使われていて、町会の人たちが持ち回りで管理していた」といった声が、舞台付きの座敷(33畳)や墨絵、詩吟、カラオケなどの部屋もあったそう。

ひよっとしたらコミュニティが希薄なってきたという今こそ、コミュニティ銭湯が必要とされているのかもしれない。

今回も銭湯とその界隈の今昔の様子があつぷりと語られた。次回はどんな記憶が集まるか。乞うご期待！

COMMENT

コミュニティとともに歩んできた銭湯店主の苦勞と喜び

— 田村将一さん(大黒湯3代目店主) —

長男だったこともあり、子どもの頃から掃除などを手伝うのは当たり前でした。番台に立つこともあり、同級生が来た時には照れくさくて仕方がなかったですね。ちなみに、私が小学生の頃は女中さんが2人住み込みで働いていて、番頭さんとも呼ばれていましたね。

母は荒川区南千住の「潮の湯」という銭湯から嫁いで来た人で、母の兄は越谷市でスーパー銭湯を経営していました。当時は銭湯の店主の家同士でお見合いしたり、結婚することが多かったんです。

その後、私は金融関係の仕事に就いたんですが、祖母が厳しい人で、深夜の掃除は私の仕事でした。そうこうしているうちに30歳になり、父が倒れて入院したのを機に銭湯を継ぐことにしました。以来、朝から深夜まで働き詰め、子どもと遊ぶ機会もほとんどなかったです。今になってちょっと申し訳ない気持ちがあります。ありがたいことに「継ぐよ」と言ってくれていますが。

あと、昔はとにかく銭湯周辺の街に活気がありました。飲食店にしてもラーメン屋や寿司屋、とんかつ屋とよりどりみどりで、時にはお客さんが寿司やラーメンを出前でとって一緒に食べたという話も聞かれました。そうやってお客さんたちと喜びを分かち合える時は、しみじみ銭湯をやっている良かったなと思えたものです。

大黒湯に遊びに来てね！



発行：一般社団法人 せんととうとまち

代表理事：栗生はるか 理事：サム・ホルデン / 三文字昌也 / 江口晋太郎 / 牧野徹 メンバー：福井彩香 / 渡邊勢士
 編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社PIN DESIGN 菅原悠介 / 岡本茉莉 協力：東京都北区浴場組合 / 白坂翼
 北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シニアプロモーション推進担当課)にて制作。
 一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
<https://bio.site/sentotomachi>

